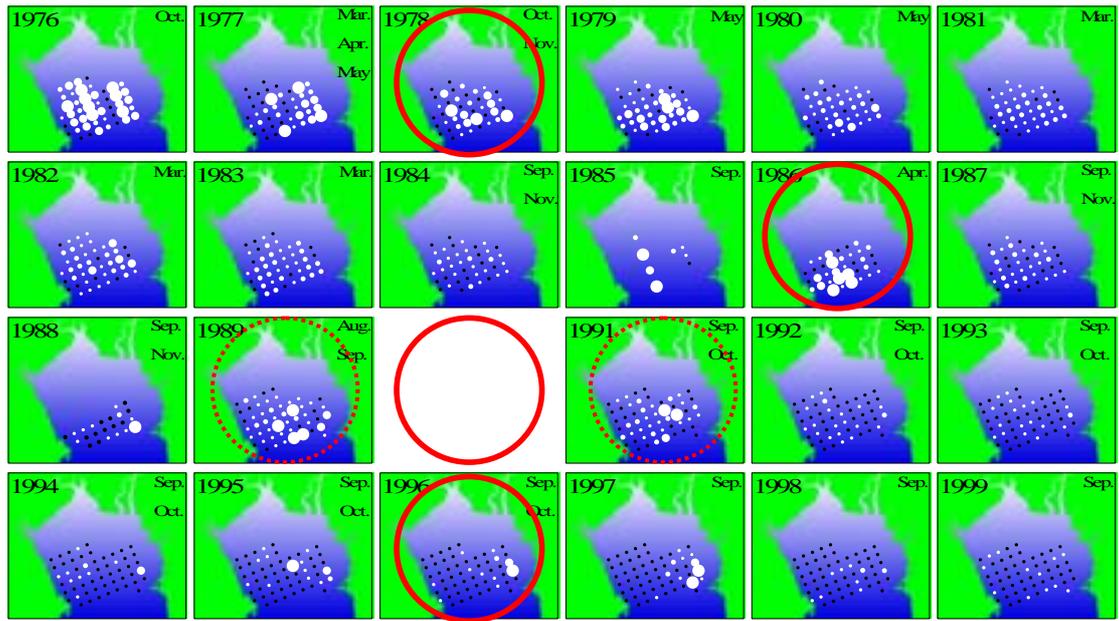


別添資料32：タイラギ成貝の生息量調査結果

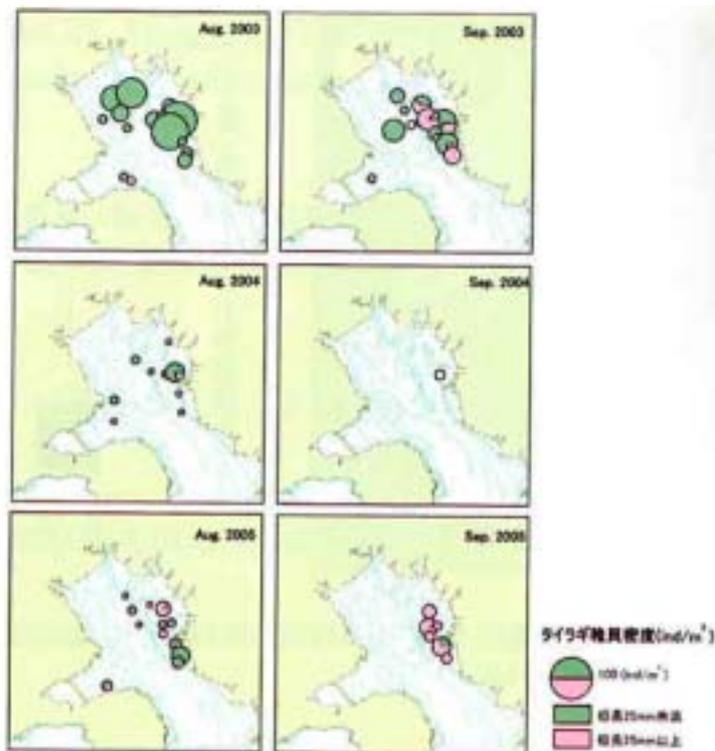


○ 100ind / 100m² ◦ < 100 ◦ < 50 ◦ < 10 • = 0

資料：伊藤史郎(2005)「第15回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-3 有明海における二枚貝について」

図 35 タイラギの生息量

別添資料33：タイラギ稚貝の密度



注) 上から順に 2003、2004、2005 年、8 月 (左) 9 月 (右)

資料：独立行政法人水産総合研究センター 西海区水産研究所資料

図 36 タイラギ稚貝密度の分布

別添資料34：基質の違いによるタイラギ浮遊幼生の着底

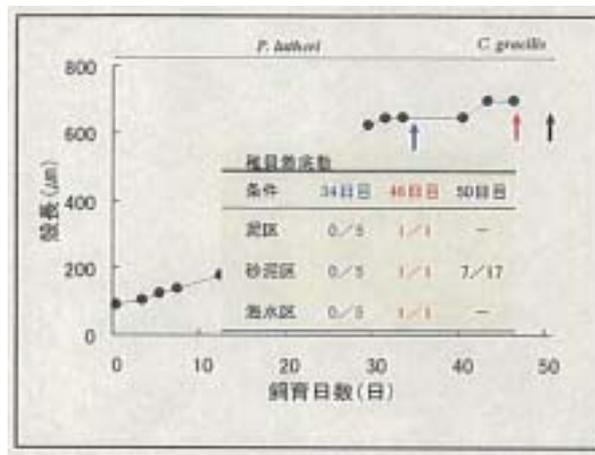
- ・ ガラスシャーレに泥のみを塗った泥区、砂の混じった泥を塗った砂泥区、何も塗らない海水区の3区へのタイラギ幼生の着底状況を観察。
- ・ ふ化後34日目の幼生（各5個体）では泥区・砂泥区・海水区のいずれにも着底せずに斃死（餌はパプロバ・セルリ）。
- ・ 餌を途中からキートセロスに変更したところ、46日目に足を出して泳ぐ3個体を確認し（写真1）試験に用いたところ、泥区・砂泥区・海水区において着底を確認。
- ・ その後、砂泥区の着底稚貝は足糸で砂粒に体を固着して成長するが、泥区の着底稚貝は足糸を出し、泥の上で匍匐を続けて斃死（写真2）。
- ・ 生残が認められた砂泥区に50日目の幼生を入れて再試験した結果、17個体中7個体が稚貝となって成長（図37）。



写真1 46日目（670μm）



写真2 衰弱個体



資料：佐賀県(2004)「第9回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-8 タイラギ浮遊幼生の飼育と着底」

図37 基質の違いによるタイラギ浮遊幼生の着底数の差

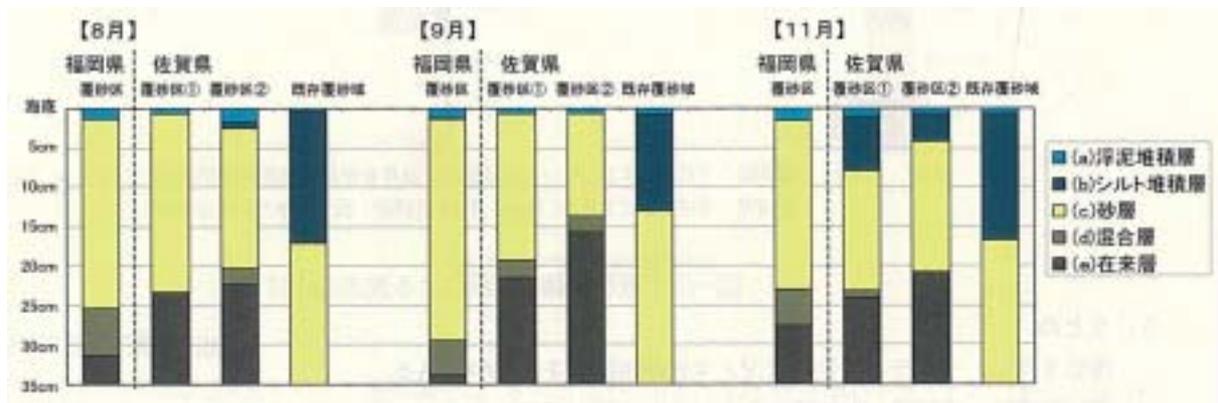
別添資料35：覆砂効果実証試験結果

表 13 タイラギの生息密度

項目	海域 区域	福岡県		佐賀県			
		覆砂区 (砂)	対照区 (覆砂なし)	覆砂区① (砂)	覆砂区② (貝殻混合砂)	対照区① (覆砂なし)	対照区② (既存覆砂域)
調査測点数		12	3	6	6	3	3
タイラギ 個体数 (/0.5 m ²)	8月	1~29 (16)	0	9~46 (24)	21~55 (36)	0	0~1 (< 1)
	9月	2~19 (9)	2~4 (3)	0~4 (1)	1~5 (3)	0	0
	11月	2~13 (8)	2 (2)	0	0~1 (< 1)	0	0

注) () 内は区域別平均値。

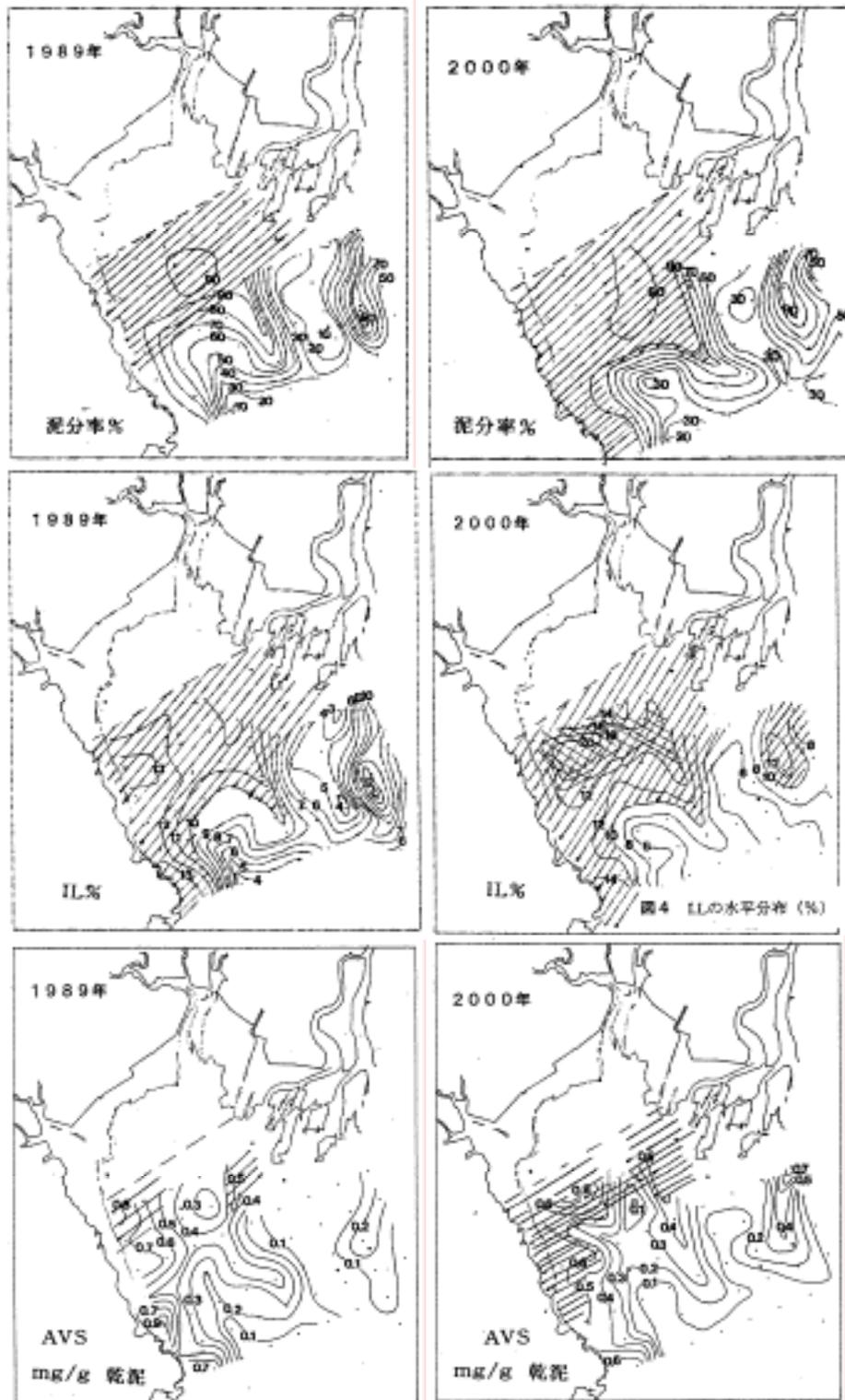
資料：水産庁（2006年）「第20回評価委員会 資料-5 有明海改善のための実証試験について」



資料：水産庁（2006年）「第20回評価委員会 資料-5 有明海改善のための実証試験について」

図 38 覆砂域における底質の層厚（区域別平均）

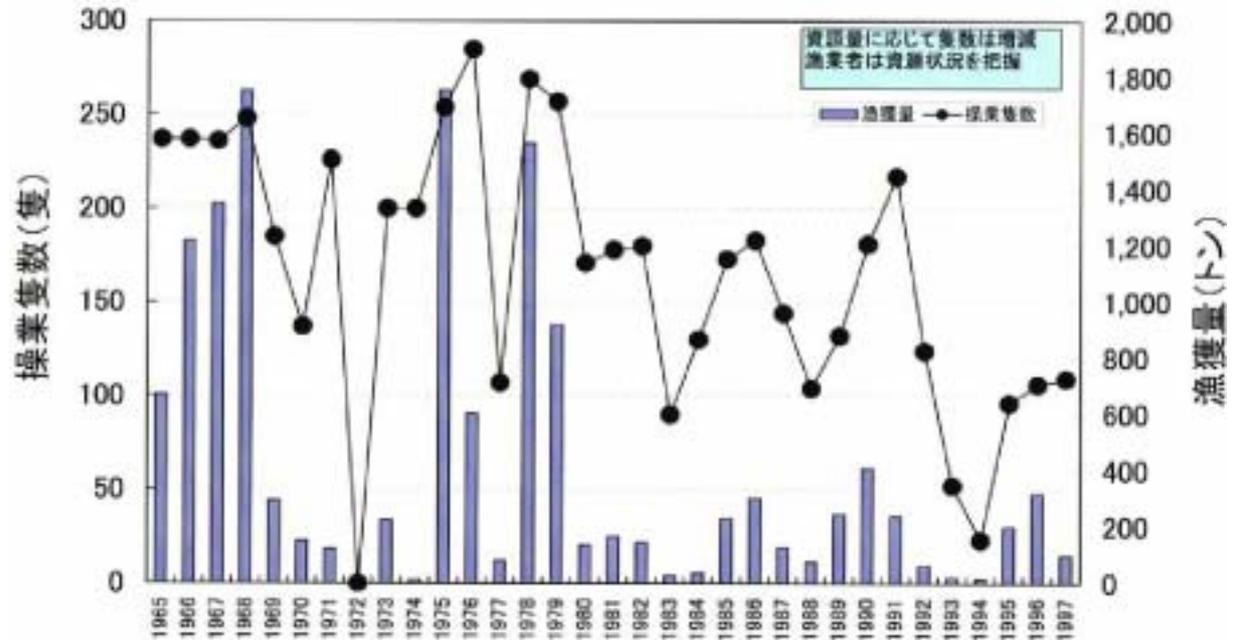
別添資料36：有明海北西部の底質調査結果



資料：1. 古賀秀昭(1991)：有明海北西海域の底質及び底生生物，佐賀県有明水産試験場研究報告，13号，pp.57-79
 2. 大隈育，江口泰蔵，川原逸朗，伊藤史郎(2001)：有明海湾奥部の底質及びマクロベントス，佐賀県有明水産振興センター研究報告，20号，pp.55-62

図 39 有明海北西部の底質環境調査結果：泥分率，強熱減量(IL)，酸揮発性硫化物(AVS)

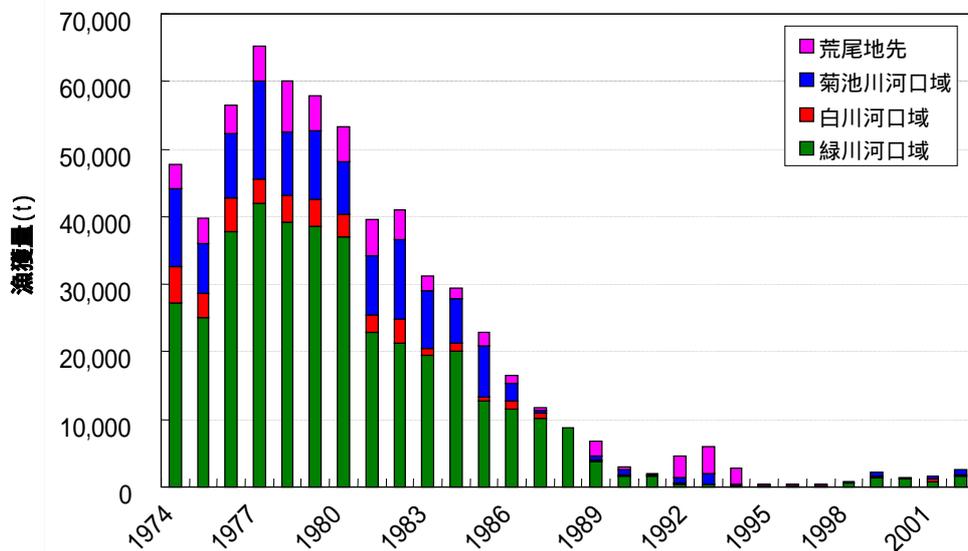
別添資料37：タイラギの漁獲努力量（大浦漁協）



資料：中田英昭 [水産資源グループ] (2006) 「第 23 回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料 2-1 水産資源グループによる検討内容」

図 40 大浦漁協におけるタイラギ潜水器漁業隻数と貝柱漁獲量

別添資料38：熊本県のアサリ漁獲量



資料：伊藤史郎(2005) 「第 15 回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-3 有明海における二枚貝について」

図 41 熊本県のアサリ漁獲量の推移